

2020年2月6日(木曜日)の北海道新聞に
災害時協定の締結にあたり
弊社パンの缶詰について掲載されました!

道新 R2.2.6 (木)

北海道新聞

災害用パン年500個 市に無償提供

北海道川崎建機 一定期間後に回収 被災地に



食料品の供給について協定を結んだ北海道川崎建機の丹野司社長（左）と上野正三市長

【北広島】建設機械販売の北海道川崎建機（大曲中央）は、災害備蓄用の缶入りパンを市に無償で提供し、一定期間が経過した後に自費で回収し、パンの製造会社を通じて国内外の被災地や飢餓に苦しむ国、地域に届ける取り組みを始めた。自然災害が頻発する中、災害時の備えに協力し、同時に国際貢献も果たす狙いだ。（阿部里子）

計画では国内外の被災地や途上国の支援に取り組み栃木県那須塩原市のパン製造業「パン・アキモト」が開発した缶入りパン（1個100g）を購入し、年に約500個ずつ市に提供する。今年のはすでに1月30日に備蓄された。

パンの賞味期限は3年間で、同社は期限の半年前に回収してアキモトに返送する。その後、アキモトや非政府組織（NGO）などが賞味期限内に国内外へ届けるといふ。アキモトは年間約10万個の缶入りパンを食料不足が深刻な被災地などに送っている。

2018年9月の胆振東部地震でも、缶入りパン1140個を道内に届けた。こうした活動を知った北海道川崎建機は、市内も胆振東部地震で大きな被害が出たことから、災害時に役立ててもらおうとアキモトの取り組みに参加することにした。

北海道川崎建機は4日、市と災害時に備えた食料品の供給の協力に関する協定を締結。同社の丹野司社長は「万一の災害に備え、できる限りの支援を続けていきたい」と話している。